

令和3年度「産科管理者研修会」  
産科混合病棟の現状と課題から対策を考える

講師：鹿児島市立病院 産婦人科部長 上塘正人医師  
鹿児島大学病院 鎌賀愛 助産師長  
済生会川内病院 下舞佳美 看護師長  
指宿医療センター 的場美香 副看護師長  
県立大島病院 田淵雅実 看護師長

日時：令和3年10月23日(土) 13:00～16:00

場所：市町村自治会館

対象：産科管理者、各施設の助産師、看護師

参加者：25名

鹿児島県の産科が抱える問題を共有し、助産師の専門性を発揮するための課題を見出すことを目的に企画された。上塘医師の講話では、少子化時代における鹿児島県下における死産率、妊産婦死亡、低出生体重児などデータを示しながら、鹿児島県の現状について知ることができた。また分娩施設が減少しており、地域格差をなくし、どうしたら医療の質を維持していくかが検討される場所である。4名の看護管理者より、各施設における混合病棟におけるゾーニングや看護体制や看護師・助産師教育、コロナ禍における混合病棟の実態など発表があった。また、それぞれの施設が考える課題についても知ることができた。助産師の専門性を発揮するために取り組むことや各施設で今後取り組みたいこと、混合病棟で看護師と助産師が協働する中での教育の在り方など活発な意見交換ができた。

